

Extensive Reading Class に於ける Shadowing の記録

1、Extensive Reading Class を受けるまでに至った経緯

私は梅雨明け頃から酒井先生の授業を受講し始め、今月でおよそ半年になる。現時点である程度シャドウイングの成果が出てきていると思われたのでこの状態に至るまでに感じた事・行ったことの全てを包み隠さず記述することとする。

まず、参考までに酒井先生の授業を受講する前の私の英語能力のサンプルとして、センター試験の点数を提示しておく。私の大学入学時のセンター試験英語の点数はおよそ140点(7割)だった。高校時代の英語の成績は必ずしもいい方では無かった(むしろ悪いほうだった)が、適当にマークした所がごとく当たり、何とかセンター試験では7割を取ることができた。

高校の授業では関係詞・接続詞アレルギーを起し、前置詞はどれも同じに見え、単語帳を見ると吐き気がし、英語は文脈で読み取るという呪文に悩まされすっかり英語が嫌いになっていた。

そして大学に入学し、更に英語教育を受ける訳だがそんな状態で英語を能動的に勉強する筈も無かった。1年生の時の written の授業ではどこからか引っ張ってきた例文の単語を入れ替えるだけでレポートを作成した。speaking の授業にいたっては授業自体が oral な英語では無く落胆した(誰の講義とは言わないが)。

この状況は2年生になっても全く変わらなかった。出席するだけで単位が取れ、教科書を暗記するだけで秀が取れる程度のなんの工夫もなく向上心を鼓舞することも無い授業によって私の英語アレルギーは助長されてすらいた。

しかし3年生の初夏に、日本人の友達が英語を喋っているのを偶然耳にする。そして、その時の彼の発音は「偽物の英語」でなく「おそらく本物らしい英語」である事は当時の私にでもなんとなく解った。

だが、『その英語らしき物がほとんど聞き取れなかった』事に私は落胆した。おそらく私はネイティブの喋っている英語は全く聞き取れないのだろうと悟った。それと同時に、同級生が英語を自由に使いこなしていることが非常に羨ましかった。落胆こそしたが、同時に興奮すら覚えた。

そして彼は酒井先生の授業を受けていた。そこからは、先生の知るとおりである。

2、Extensive Reading Class 以外での英語勉強の記録

本報告書の目的は Shadowing の成果を記述するものである。しかしながら、酒井先生の研究の参考に少しでもしていただきたいので、私は思い出せる限り自身の英語に触れた記憶を記述していこうと思う。main topic である Shadowing の記録については、次項目を参照して頂きたい。

私は10月に入ってから TOEIC の勉強の為に勉強を始めた。自宅では文法（関係詞・接続詞・名詞の省略）と単語について勉強し、授業では Shadowing をする、と住み分けをすることによって英語学習の効率をあげようとしたのである。

しかし、通常の英語の勉強方法とは異なるような自習方法で勉強を行った。

たとえば、英文法を勉強する時には極力日本語訳はしないようにした。日本語を英語と対応させるより、英文で記されていることを直接イメージするように心がけたのである。これには以下の2つの理由があった。

1つ目として、授業での Shadowing の効果を下げたくなかったという事である。英文を和文に訳するくせがついてしまうと、聞こえた音を素直に Shadowing できないと思ったからである。英語を日本語に訳することで思考によるワンクッションを置くのを避けたかったのである。

2つ目として、私の高校までの英語の勉強が足りなさ過ぎて、簡単な関係詞・接続詞も理解出来ていなかったことに拠る。Shadowing の効率を上げるためには（というより、多読の効率を上げるには）、たくさん読んで英語に慣れることも必要だが関係詞を理解できないと英文が全然わからなくなる。せめてどの品詞に関係詞節が掛かっているか、くらいはわからないと内容が理解できなくて多読が楽しく無くなると思ったからである。

以上の2つは単語・文法両方に極力心がけた。単語は日本語訳を覚えるのでなくできるだけ「単語の意味する概念・様子・状態」を感覚的に想像するようにし、文法の勉強も訳はせず、英文の示す状況・状態をイメージする様に心がけた。

3、Shadowing の記録

私は今年の7月頃から酒井先生の授業に出席させていただいている。そして7月の暮から Shadowing を始めた。

今までの Shadowing を行った総時間数は授業での90分(授業中は Shadowing 以外を行わない)と、夏休みのインターンの通勤時間だけなので、総時間数でおよそ50時間くらいだと思われる。絶対に30時間以上は行っているが、70時間は行っていないと思う。

また、Shadowing を行う際に心がけていた事・気がついた事は以下のとおりである。

心がけていた事

- ①基本的に本は見ない。音だけに集中し、耳から聞こえてきた情報を愚直に繰り返す。音声と文字をリンクさせたいな、と思った時だけ本をみて Shadowing を行う。
- ②リズムの波にのる。聞き取れなかった所も雰囲気ですらんに音を出し、リズム感を楽しむ。
- ③聞こえたままに Shadowing する。目を瞑って耳から聞こえるものに集中するのも良い。
- ④最初は自分の声を聞かないで、聞こえてくる音声だけを聞くように心がける。ある程度出来るようになってきたら、CDの音声と自分の声が半々に聞こえるようにしてそれらを比較しながら Shadowing を行う。
- ⑤登場人物の声やら演技やらをできるだけ真似る。声の高さすら真似る。これによって自分とCDの音を比較しやすい。
- ⑥アゴが痛くなったらやめる。

気がついた事

- ①英国の教材をやっていると、音がゴツゴツしていてリズムにハマると楽しい。
- ②あまり元の音声と自分の声にタイムラグをつくらないほうが良い。スピードの早い教材だと聞こえていたものを忘れてしまう。
- ③リズムだけ解る。英語にすら聞こえない
→リズムに乗れるようになる。
→英語に聞こえてくる。でも口は追いつかない。声に出さないのならある程度 Shadowing できる。
→口は大分追いついてくる。でも自分で何を言っているのか意味はさっぱりわからない。
→Shadowing が大分出来るようになってくる。文章を覚えてくる。意味・雰囲気が大分わかる。
のような段階を踏む。文章を覚えてしまったら教材を変える。
(私は今まで The Devil Wears Prada と Harry Potter しかやっていない。Prada は覚えてしまった。)
- ④他の人に Shadowing を聞いてもらったところ、「本を見ないほうが発音が綺麗だ」と言われたので、単語のスペルを覚えたい時以外は極力本を見ない。その方が音だけに集中できて楽しい。

以上、私の英語学習の記録についてできるだけ細かく記したが、まだまだ学習途中なので今後どう状況が変化してくか判らない。変化があり次第、また報告させて頂く。

(以下空白)